

■森鷗外 小説家、評論家。軍医として最高位まで出世しながら、傑作を次々発表し、樋口一葉を世に出した。

もりおうがい

生麦事件・・1862=

石見国(島根県)津和野で、\_津和野藩主亀井家の典医森静泰(のち静男)の長男に生まれる。

大政奉還・・1867= 5歳：論語から始めて、

明治維新・・1868= 6歳：維新後は父が禄を離れて上京し千住で診療所を開いたため、鷗外は母峰子の薰陶下に、没落した生家再興の期待を託されて育つ。

孟子、四書、五經、左氏、さらにオランダ文典を学んだのち、

廃藩置県・・1871= 9歳：

学問のすすめ1872=10歳：父に伴われて上京。神田小川町の西周邸に寄寓し、ドイツ語を学ぶため進文学舎へ通った。

明治6年政変 1873=11歳：

佐賀の乱・・1874=12歳：年齢を二つサバ読んで、東京医学校予科に入学。

西南戦争・・1877=15歳：医学校が改称した東京大学医学部本科生となる。

・・・・・ 1880=18歳：

明治14年政変1881=19歳：\_最年少で東大医学部を卒業し、軍医に任官した。

秩父事件・・1884=22歳：\_衛生学研究のためドイツ留学を命ぜられ渡独。

\_ドイツの軍を介して西欧の思想と文化に触れて清新な感動を受けた。

初の対等条約1888=26歳：\_帰国して軍医学校の教官となる。落合直文や井上通泰、妹の小金井喜美子らと{新声社}を結成。

帝国憲法発布1889=27歳：西周の媒酌で結婚。\*西欧の抒情詩を中心とする訳詩集「於母影」を発表。「しからみ草紙」を創刊し評論を中心に、レッッシングにみずからを擬した戦闘的な文学啓蒙活動を展開。

帝国議会始・1890=28歳：長男誕生後、離婚し、西周とも絶縁状態になる。\*「舞姫」や「うたかたの記」など、ドイツ留学記念の三部作を書いて戯作性を脱却した近代小説の確立に貢献した。医学面では{衛生病理志}などの個人誌を創刊、医学界の封建性の払拭をめざした論議をいどみ、その批判が軍医部内の上部に及ぶことも辞さなかった。

足尾鉱毒始・1891=29歳：\_「文づかひ」を発表。医学博士になる。坪内逍遙の説く写実主義に対して、イデー(理想)を重視する浪漫主義の立場から批判を加え、没理想論争を応酬した。

大本教・・1892=30歳：「水沫集」刊行。ハルトマンの美学を祖述した「審美論」。\_アンデルセンの「即興詩人」の翻訳に着手。

郡司千島探検1893=31歳：\_陸軍軍医学校校長になる。日清戦争の従軍で文学活動は中断したが(陸軍軍医監に昇進)，凱旋後、

日清戦争始・1894=32歳：

白馬会・・1896=34歳：この年、父が死去。「月草」刊行。\_{めさまし草}を創刊、合評形式による実作の批評を試み、とくに樋口一葉を推賞して世に出したことは有名。

八幡製鉄始・1897=35歳：「かげ草」を刊行、\_その後も昇進を続けたが、

子規句歌革新1898=36歳：

Bushidou・・1899=37歳：「審美綱領」刊行。\_小倉の第12師団に左遷され、

ピアノ国産化・1900=38歳：「鷗外漁史とは誰ぞ」を書いて以後、\_文壇への発言を停止した。

田中正造直訴1901=39歳：\_「即興詩人」を完成。

教科書疑獄・1902=40歳：再婚し、\_東京の第1師団に復帰。上田敏らと{芸文}({万年艸}に変わる)を創刊。「即興詩人」を刊行。

日比谷公園・1903=41歳：長女誕生。「長宗我部信親」刊行。クラウゼヴィツの「戦争論」の翻訳を試みる(「大戦学理」)。

日露戦争始・1904=42歳：\_日露戦争に従軍。戦場での詩歌・俳句をまとめた異色のアンソロジー「うた日記」を編んでいる。

日露戦争終・1905=43歳：

韓国反日暴動1907=45歳：\*凱旋し、陸軍軍医総監に進級して、陸軍省医務局長に補せられ、軍医としての最高位についた。

アラヤ創刊・1908=46歳：\_文部省の国語政策に干渉して、歴史的仮名遣いの改定を阻止した(「仮名遣意見」)。

伊藤博文暗殺1909=47歳：\_家庭内のトラブルを描いた小説「半日」から創作活動を再開し、第二の活動期を迎える。{スバル}{三田文学}など耽美主義の拠点となった雑誌の精神的支柱として自然主義と対立したが、自身の作風はロマンティズムの枠をこえて、はるかに多彩だった。この年の自己の性欲史を冷徹に点検、叙述した「キタ・セクスアリス」は発禁処分を受けて話題になったが、身辺の事実に題材を求めた短編も多い。「予が立場」ではresignation(諦念)の心境について語っている。

韓国併合・・1910=48歳：「あそび」、短編「普請中」、「沈黙の塔」「食堂」を発表。

大逆事件判決1911=49歳：長編「青年」。「百物語」などに、高級官僚として日本の近代を生きる複雑な心情を吐露。「妄想」も同系列の作品で、半生を回想してなお尽きぬ「見果てぬ夢」の思いを述べが、現実の時代状況への対応も敏感で、

明治天皇没・1912=50歳：\_「かのやうに」以下一連の秀麿物などで、大逆事件に象徴される政府の社会主義弾圧政策に対して、強い危惧を表明。また、大正期の鷗外は乃木希典の殉死に触発されて、歴史小説に新しい領域を開くことになり、「興津弥五右衛門の遺書」は殉死者の遺書に擬して乃木への賛歌を語る。

大正政変・・1913=51歳：\_長編「雁」にはロマンティックな抒情がたたよい、「阿部一族」には武士道を貫いた死者への感動を表現。

第一次大戦始1914=52歳：\_「大塩平八郎」では亂に批判的である。その後、"歴史離れ"の方向にむかい、

21ヶ条要求・1915=53歳：\_異色作「最後の一匁」。「山椒大夫」、

民本主義・・1916=54歳：\_「高瀬舟」「寒山拾得」などの佳作。「渋江抽斎」では史伝の新しい領域を開き、文体も高雅に完成され、

1917=55歳：「北条霞亭」の連載を始め、

原敬首相暗殺1921=59歳：その続編「霞亭生涯の末一年」で完結させて、

水平社結成・1922=60歳：\_萎縮腎で没した。